

# 四半期報告書

(第75期第3四半期)

自 平成20年10月1日  
至 平成20年12月31日

株式会社 **富士通ビジネスシステム**

東京都文京区後楽一丁目7番27号

# 目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2
第2 事業の状況	3
1 生産、受注及び販売の状況	3
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態及び経営成績の分析	4
第3 設備の状況	5
第4 提出会社の状況	6
1 株式等の状況	6
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) ライツプランの内容	6
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(5) 大株主の状況	6
(6) 議決権の状況	7
2 株価の推移	7
3 役員の状況	8
第5 経理の状況	9
1 四半期連結財務諸表	10
(1) 四半期連結貸借対照表	10
(2) 四半期連結損益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	17
第二部 提出会社の保証会社等の情報	18

[四半期レビュー報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年2月12日
【四半期会計期間】	第75期第3四半期（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）
【会社名】	株式会社富士通ビジネスシステム
【英訳名】	FUJITSU BUSINESS SYSTEMS LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鈴木 國明
【本店の所在の場所】	東京都文京区後楽一丁目7番27号
【電話番号】	(03)5804-8111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 会沢 貴志
【最寄りの連絡場所】	東京都文京区後楽一丁目7番27号
【電話番号】	(03)5804-8111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 会沢 貴志
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第3四半期連結 累計期間	第75期 第3四半期連結 会計期間	第74期
会計期間	自平成20年 4月1日 至平成20年 12月31日	自平成20年 10月1日 至平成20年 12月31日	自平成19年 4月1日 至平成20年 3月31日
売上高（百万円）	102,756	32,161	148,855
経常利益（△損失）（百万円）	△298	△1,081	3,385
四半期（当期）純利益（△損失） （百万円）	△637	△950	1,853
純資産額（百万円）	—	60,375	62,259
総資産額（百万円）	—	98,821	114,260
1株当たり純資産額（円）	—	2,304.07	2,350.47
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（△損失）（円）	△24.29	△36.26	69.98
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	—	61.1	54.5
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△643	—	△453
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△8,115	—	△16,857
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△895	—	△451
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	—	10,359	20,015
従業員数（人）	—	3,373	3,321

（注）1．当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2．売上高には、消費税等は含んでおりません。

3．潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため、また、第75期第3四半期連結累計（会計）期間については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社、当社の連結子会社3社及び持分法適用関連会社1社）が、営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	3,373
---------	-------

### (2) 提出会社の状況

平成20年12月31日現在

従業員数（人）	3,272
---------	-------

## 第2【事業の状況】

### 1【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当社グループは、お客様からの受注販売を基本として情報ネットワークサービス、保守サービス、コンストラクションサービスを提供しており、その品目・形態は広範囲かつ多種多様であります。このため、生産実績を定義することが困難であり、また生産実績を金額あるいは数量で示すことの意義が薄く、生産実績の記載を省略しております。

#### (2) 受注状況

事業の種類別セグメントを記載していないため、当第3四半期連結会計期間の受注状況を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

区分	受注高(百万円)	前年同期比 (%)	受注残高(百万円)	前年同期比 (%)
情報システム	11,043	—	17,620	—
ソフトウェアサービス	17,642	—	21,180	—
情報ネットワークサービス 計	28,685	—	38,801	—
保守サービス 計	2,775	—	92	—
コンストラクションサービス 計	2,668	—	3,005	—
合計	34,129	—	41,899	—

(注) 金額には消費税等は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

事業の種類別セグメントを記載していないため、当第3四半期連結会計期間の販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

区分	金額 (百万円)	前年同期比 (%)
情報システム	8,536	—
ソフトウェアサービス	18,588	—
情報ネットワークサービス 計	27,125	—
保守サービス 計	2,778	—
コンストラクションサービス 計	2,256	—
合計	32,161	—

(注) 金額には消費税等は含まれておりません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3 【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 経営成績

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、米国サブプライムローン問題に端を発した金融不安及び円高が、企業の業績不振、雇用調整そして消費不振へと波及しました。そのため、景況感は急速に悪化し、経営環境は厳しさを増してきております。

こうした状況の中で当社グループは、従来から取り組んできましたコンサル型営業、自社ソリューションの強化、及び東京地区への一層のリソースシフトに加え、今年度は、中小市場において新しいビジネスモデルによる営業活動を展開しました。

この結果、当第3四半期連結会計期間における受注高は34,129百万円となりました。売上高は32,161百万円となりましたが、売上総利益率が低迷したため、営業損失は908百万円、経常損失は1,081百万円となりました。投資有価証券評価損413百万円を特別損失に計上しましたが、法人税等合計が546百万円の戻入となったため、四半期純損失は950百万円となりました。

#### [情報ネットワークサービス]

情報ネットワークサービスの売上高は、27,125百万円となりました。

情報システム（ハードウェア）の売上高は、官公庁及び自治体への販売が好調で、8,536百万円となりました。また、ソフトウェアサービスの売上高は、ITマネジメントサービス等のソリューションサービスが好調で、18,588百万円となりました。

#### [保守サービス]

保守サービスの売上高は、ハードウェア価格の下落に伴う保守価格の下落により、2,778百万円となりました。

#### [コンストラクションサービス]

コンストラクションサービスの売上高は、IP-PBX及び携帯電話基地局等の通信系工事、並びにオフィスリニューアル工事は堅調に推移しましたが、情報系工事及びオフィス移転工事等が減少し、2,256百万円となりました。

### (2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は98,821百万円（第2四半期連結会計期間末比4.9%減）、純資産は60,375百万円（同2.1%減）となり、それぞれ第2四半期連結会計期間末より減少しました。

資産及び負債は、受取手形及び売掛金が7,722百万円、支払手形及び買掛金が3,530百万円それぞれ減少しました。第2四半期連結会計期間末残高の決済額が、第3四半期連結会計期間末の計上額を上回ったためであります。

純資産は、第3四半期連結会計期間の四半期純損失950百万円、及び剰余金の配当235百万円等により、減少しました。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下、資金という）の残高は、10,359百万円（第2四半期連結会計期間末比33.7%減）となりました。

第3四半期連結会計期間の資金の減少要因としては、税金等調整前四半期純損失の計上1,496百万円、たな卸資産の増加1,614百万円、仕入債務の減少3,530百万円、及び有価証券・投資有価証券の取得による支出6,298百万円等がありました。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

### (5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、94百万円であります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な変更はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、前四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除去等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除去、売却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成21年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	26,493,555	26,493,555	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	26,493,555	26,493,555	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成20年10月1日～ 平成20年12月31日	—	26,493,555	—	12,220	—	11,811

#### (5)【大株主の状況】

大量保有報告書等の写しの送付等がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

## (6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成20年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

### ①【発行済株式】

平成20年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 289,700	—	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 26,191,600	261,916	同 上
単元未満株式	普通株式 12,255	—	—
発行済株式総数	26,493,555	—	—
総株主の議決権	—	261,916	—

（注）上記「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,800株（議決権の数28個）含まれております。

### ②【自己株式等】

平成20年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社富士通ビジネスシステム	東京都文京区後楽一丁目7番27号	289,700	—	289,700	1.1
計	—	289,700	—	289,700	1.1

## 2【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年4月	平成20年5月	平成20年6月	平成20年7月	平成20年8月	平成20年9月	平成20年10月	平成20年11月	平成20年12月
最高（円）	1,287	1,465	1,488	1,467	1,487	1,472	1,445	1,402	1,409
最低（円）	1,069	1,236	1,382	1,317	1,325	1,308	1,004	1,250	1,103

（注） 株価は、東京証券取引所（市場第一部）における市場相場であります。

### 3 【役員 の 状 況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までの役員の変動は、次のとおりであります。

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
専務取締役	経営全般補佐 (兼)第二営業本部・公共営業本部担当	専務取締役	経営全般補佐	中村 巧	平成20年10月1日
専務取締役	マーケティング本部長 (兼)関西営業本部長 (兼)第三営業本部担当 (兼)地域営業担当 (兼)経営企画室担当 (兼)広報IR部担当	専務取締役	営業部門担当 (兼)関西営業本部長 (兼)マーケティング本部長 (兼)経営企画室担当 (兼)広報IR部担当	田村 昭二	平成20年10月1日
常務取締役	第一営業本部長 (兼)システム建設本部担当	常務取締役	第一営業本部長 (兼)第二営業本部長 (兼)第三営業本部担当	清水 吉治	平成20年10月1日
取締役	第二営業本部長	取締役	第二営業本部副本部長	佐藤 彰	平成20年10月1日

## 第5【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成20年8月7日内閣府令第50号）附則第7条第1項第5号ただし書きにより、改正後の四半期連結財務諸表規則を適用しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,765	11,312
受取手形及び売掛金	※3 24,943	40,100
有価証券	5,983	5,526
たな卸資産	※1 13,689	※1 11,640
預け金	24,594	23,675
その他	2,717	2,573
貸倒引当金	△9	△12
流動資産合計	77,684	94,817
固定資産		
有形固定資産	※2 2,848	※2 3,016
無形固定資産	983	1,099
投資その他の資産		
投資有価証券	10,189	8,875
その他	7,606	6,936
貸倒引当金	△491	△484
投資その他の資産合計	17,304	15,327
固定資産合計	21,136	19,443
資産合計	98,821	114,260
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 19,135	30,660
その他	7,299	9,824
流動負債合計	26,434	40,484
固定負債		
退職給付引当金	11,765	11,235
役員退職慰労引当金	245	281
固定負債合計	12,011	11,516
負債合計	38,446	52,000
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	12,220	12,220
資本剰余金	11,811	11,811
利益剰余金	37,387	38,525
自己株式	△405	△7
株主資本合計	61,012	62,549
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△637	△289
評価・換算差額等合計	△637	△289
純資産合計	60,375	62,259
負債純資産合計	98,821	114,260

(2) 【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
(自 平成20年4月1日  
至 平成20年12月31日)

売上高	102,756
売上原価	84,697
売上総利益	18,058
販売費及び一般管理費	※1 17,776
営業利益	281
営業外収益	
受取利息	326
受取配当金	17
持分法による投資利益	1
雑収入	70
営業外収益合計	414
営業外費用	
退職給付積立不足償却額	940
雑支出	54
営業外費用合計	995
経常損失(△)	△298
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1
特別利益合計	1
特別損失	
投資有価証券評価損	472
投資等償還損	1
投資有価証券売却損	0
特別損失合計	473
税金等調整前四半期純損失(△)	△770
法人税、住民税及び事業税	48
法人税等調整額	△180
法人税等合計	△132
四半期純損失(△)	△637

## 【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)
売上高	32,161
売上原価	27,118
売上総利益	5,042
販売費及び一般管理費	※1 5,951
営業損失(△)	△908
営業外収益	
受取利息	116
受取配当金	8
雑収入	30
営業外収益合計	155
営業外費用	
退職給付積立不足償却額	313
持分法による投資損失	2
雑支出	12
営業外費用合計	328
経常損失(△)	△1,081
特別損失	
投資有価証券評価損	413
投資等償還損	1
特別損失合計	414
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,496
法人税、住民税及び事業税	△195
法人税等調整額	△350
法人税等合計	△546
四半期純損失(△)	△950

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間  
 (自 平成20年4月1日  
 至 平成20年12月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△770
減価償却費	578
退職給付引当金の増減額(△は減少)	530
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△36
貸倒引当金の増減額(△は減少)	4
受取利息及び受取配当金	△343
持分法による投資損益(△は益)	△1
投資有価証券評価損益(△は益)	472
投資等償還損	1
投資有価証券売却損益(△は益)	0
有形固定資産除却損	6
その他の損益(△は益)	18
売上債権の増減額(△は増加)	15,133
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,049
その他の資産の増減額(△は増加)	△107
仕入債務の増減額(△は減少)	△11,524
未払消費税等の増減額(△は減少)	△555
その他の負債の増減額(△は減少)	△245
小計	1,111
利息及び配当金の受取額	291
事業再編による支出	△423
法人税等の支払額	△1,622
営業活動によるキャッシュ・フロー	△643
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△5,911
有価証券の売却による収入	1,498
預け金の預入による支出	△20,000
預け金の払戻による収入	20,000
有形固定資産の取得による支出	△119
無形固定資産の取得による支出	△217
投資有価証券の取得による支出	△3,434
投資有価証券の売却による収入	102
敷金及び保証金の差入による支出	△48
敷金及び保証金の回収による収入	18
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△2
その他	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,115
財務活動によるキャッシュ・フロー	
配当金の支払額	△497
自己株式の取得による支出	△398
財務活動によるキャッシュ・フロー	△895
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△9,655
現金及び現金同等物の期首残高	20,015
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,359

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)
会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法の変更</p> <p>たな卸資産</p> <p>通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、仕掛品は個別法による原価法、その他のたな卸資産は先入先出法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)が適用されたことに伴い、それぞれ原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。</p> <p>これによる、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。</p> <p>(2) サービスビジネス営業費用の計上区分の変更</p> <p>従来、サービスビジネス営業費用については、売上原価に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間から、販売費及び一般管理費に計上する方法に変更しました。</p> <p>当社グループでは、保守サービス分野の構造改革として、ハードウェア保守を担当していた従業員の一部について、サービスビジネス営業への職種転換を段階的に進めてきました。こうした職種転換が終了し、第1四半期連結会計期間よりサービスビジネス営業に専従する体制が整備されたため、この変更を行ったものであります。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上原価は884百万円減少し、販売費及び一般管理費は同額増加しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)																
<p>※1 たな卸資産の内訳</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>商品及び製品</td> <td style="text-align: right;">170 百万円</td> </tr> <tr> <td>仕掛品</td> <td style="text-align: right;">13,495</td> </tr> <tr> <td>原材料及び貯蔵品</td> <td style="text-align: right;">23</td> </tr> </table> <p>※2 有形固定資産の減価償却累計額 4,842百万円</p> <p>※3 四半期連結会計期間末日満期手形                      四半期会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当四半期会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>受取手形</td> <td style="text-align: right;">150 百万円</td> </tr> <tr> <td>支払手形</td> <td style="text-align: right;">38</td> </tr> </table>	商品及び製品	170 百万円	仕掛品	13,495	原材料及び貯蔵品	23	受取手形	150 百万円	支払手形	38	<p>※1 たな卸資産の内訳</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>商品及び製品</td> <td style="text-align: right;">121 百万円</td> </tr> <tr> <td>仕掛品</td> <td style="text-align: right;">11,489</td> </tr> <tr> <td>原材料及び貯蔵品</td> <td style="text-align: right;">28</td> </tr> </table> <p>※2 有形固定資産の減価償却累計額 4,779百万円</p> <p>※3 _____</p>	商品及び製品	121 百万円	仕掛品	11,489	原材料及び貯蔵品	28
商品及び製品	170 百万円																
仕掛品	13,495																
原材料及び貯蔵品	23																
受取手形	150 百万円																
支払手形	38																
商品及び製品	121 百万円																
仕掛品	11,489																
原材料及び貯蔵品	28																

(四半期連結損益計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)								
<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">6,575 百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員賞与</td> <td style="text-align: right;">2,359</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">523</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">52</td> </tr> </table>	従業員給料手当	6,575 百万円	従業員賞与	2,359	退職給付費用	523	役員退職慰労引当金繰入額	52
従業員給料手当	6,575 百万円							
従業員賞与	2,359							
退職給付費用	523							
役員退職慰労引当金繰入額	52							

当第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)								
<p>※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>従業員給料手当</td> <td style="text-align: right;">2,141 百万円</td> </tr> <tr> <td>従業員賞与</td> <td style="text-align: right;">833</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">190</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">17</td> </tr> </table>	従業員給料手当	2,141 百万円	従業員賞与	833	退職給付費用	190	役員退職慰労引当金繰入額	17
従業員給料手当	2,141 百万円							
従業員賞与	833							
退職給付費用	190							
役員退職慰労引当金繰入額	17							

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)												
<p>現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日)</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">5,765 百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券勘定</td> <td style="text-align: right;">5,983</td> </tr> <tr> <td>預け金勘定</td> <td style="text-align: right;">24,594</td> </tr> <tr> <td>償還期間が3ヶ月を超える債券</td> <td style="text-align: right;">△5,983</td> </tr> <tr> <td>預入期間が預入日から3ヶ月を超える預け金</td> <td style="text-align: right;">△20,000</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">10,359</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	5,765 百万円	有価証券勘定	5,983	預け金勘定	24,594	償還期間が3ヶ月を超える債券	△5,983	預入期間が預入日から3ヶ月を超える預け金	△20,000	現金及び現金同等物	10,359
現金及び預金勘定	5,765 百万円											
有価証券勘定	5,983											
預け金勘定	24,594											
償還期間が3ヶ月を超える債券	△5,983											
預入期間が預入日から3ヶ月を超える預け金	△20,000											
現金及び現金同等物	10,359											

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数

普通株式 26,493,555株

2. 自己株式の種類及び株式数

普通株式 289,793株

3. 配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成20年5月23日 取締役会	普通株式	264	利益剰余金	10	平成20年3月31日	平成20年6月9日
平成20年10月29日 取締役会	普通株式	235	利益剰余金	9	平成20年9月30日	平成20年12月1日

4. 株主資本の金額の著しい変動

第1四半期連結会計期間において、資本効率の向上を図るとともに、機動的な資本政策を遂行するため、信託方式による東京証券取引所での市場買付けにより、自己株式398百万円(普通株式284,200株)を取得しました。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当社グループは、情報通信分野におけるシステムインテグレーション及びサービスの提供を行う単一の事業活動を営んでいるため、該当事項はありません。

【所在地別セグメント情報】

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成20年12月31日)

その他有価証券で時価のあるものが、事業の運営において重要なものとなっており、かつ、前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められます。

	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表計上額(百万円)	差額(百万円)
(1) 株式	282	197	△84
(2) 債券	9,934	9,938	4
(3) その他	5,407	4,453	△953
合計	15,623	14,589	△1,034

(デリバティブ取引関係)

当社グループは、デリバティブ取引を全く行っておりませんので該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)		前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	
1株当たり純資産額	2,304.07円	1株当たり純資産額	2,350.47円

2. 1株当たり四半期純損失金額等

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
1株当たり四半期純損失金額	24.29円	1株当たり四半期純損失金額	36.26円
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)
四半期純損失(百万円)	637	950
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(百万円)	637	950
期中平均株式数(株)	26,249,755	26,203,782

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成20年10月29日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- ① 中間配当による配当金の総額……………235百万円
- ② 1株当たりの金額……………9円00銭
- ③ 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成20年12月1日

(注) 平成20年9月30日現在の最終の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払を行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月12日

株式会社富士通ビジネスシステム

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 太田 周二 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池上 玄 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 角田 伸理之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社富士通ビジネスシステムの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社富士通ビジネスシステム及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。